

## I

### 問一

シュー・ビンの書は、漢字文化が本質的に抱える偽物性を強調する芸術であり、創意工夫から生み出された偽文字を容易に偽物と見抜くことができる漢字文明圏の成員よりも、本物か偽物が判断できない西洋人の方がかえってその芸術性を素直に受容できるため。

### 問二

偽文字として公言することで、漢字文明圏の人々はシュー・ビンの書の持つ創意工夫を指摘でき、それが成員としての優越性を確認させるため、本物か偽物か見抜けない非漢字文明圏の人々だけでなく、漢字文明圏の人々も芸術として評価できる点が周到であること。

### 問三

シュー・ビンが漢字を擬態して偽文字を発明し、それを改良して増殖させていった過程は、社会的に違法とされる海賊行為とその産物が、認知と評価を経て少しずつ正統性を獲得し、最終的には本物の代替物として流通循環する過程を、そのまま演じているということ。

### 問四

北方騎馬民族のように複雑な文字や、仮名文字やハングルのように現地語をよりよく表すための文字を発明することで漢字への優越性を誇示する行為自体、基準が中原の漢字にあり、その限りにおいて中原に対する劣位が前提になっているという複合性に特徴がある。

## II

### 問一

若者は汽車の窓外の景色を見ることで、囚人となった者には滅多に訪れない、自分が囚われていることを完全に忘れていたような、明るく朗らかな解放感を覚えている。

### 問二

田舎紳士の心ない言葉が、囚人である若者の、先ほどまでの明るく朗らかな表情を、暗く陰惨な、典型的な囚人の表情に変えてしまったことに、強い憤りを感じたから。

### 問三

視覚や触覚に訴える比喻を用いることで、若者が多くの乗客たちの好奇心や非難を含んだ鋭い視線にさらされて、身を守ったり隠れたりする場所もなく、痛みを覚えるほど強い圧迫感を受けていることを感じさせる効果がある。

### 問四

乗客たちは、若者の嗚咽によって、集団に嘲弄されることで人としての尊厳を傷つけられた彼の内面をようやく考慮し始め、自分たちの軽率で残酷なふるまいについて反省していると考えている。

## III

問一 単語についての知識を踏まえ、文脈に合わせて適切に意味を述べられるかを問う問

題である。

- 問二 場面の状況について、単語の意味と文脈とを踏まえて適切に理解できているかを問う問題である。
- 問三 基本的な語法・文法を理解し、適切に現代語訳できるかを問う問題である。
- 問四 基本的な単語の意味を理解するとともに、敬語の用法に留意して動作主を確定し、適切に現代語訳できるかを問う問題である。
- 問五 基本的な語法と場面の状況とを理解して、和歌を適切に現代語訳できるかを問う問題である。

#### IV

- 問一 【出題の意図】漢文語法の基礎・再読文字「まさに……せんとす」が理解できているかどうかを問う。
- 問二 忠告の言葉は素直に耳に入っていないが、実際の行動には役に立つ。  
【出題の意図】基礎的な漢文の読解、特に「逆」（さからう）と置き字「於」の理解を問う。
- 問三 井戸の水は甘い（美味しい）と（皆が汲むので）涸れて尽きてしまい、李（すすも）は苦いと（誰も食べようとしないので）身を保つことができる。  
【出題の意図】対句で構成された漢文の意味を理解できるかどうかを問う。
- 問四 越王勾践が呉への復讐（仇討ち）の気持ちを忘れないようにするため、常に苦い肝を嘗めた（苦しい試練を自己に課した）ことによって、国を再興できた（捲土重来できた）ということ。  
【出題の意図】成語「臥薪嘗胆」の基礎知識と文脈に沿った説明の力を問う。
- 問五 【出題の意図】全体の文意を把握した上で、それを的確に文章化できるかどうかを問う。